

行政院及所屬各機關出國報告
(出國類別：其他)

參加「2016 名古屋ど真ん中祭典
及觀光推廣活動」報告書

服務機關：交通部觀光局

姓名職稱：黃怡平 科長

派赴國家：日本

出國期間：民國 105 年 8 月 25 日至 8 月 29 日

報告日期：民國 105 年 11 月 7 日

行政院及所屬各機關出國報告提要

頁數：00 本文含附件：是

出國報告名稱：參加 2016 年名古屋ど真ん中祭典及觀光推廣活動報告

出國計畫主辦機關：交通部觀光局

出國人員姓名/服務機關/單位/職稱/電話：

張錫聰/交通部觀光局/科長/02-2349-1500 分機 8420

出國類別：其他

出國地區：日本

出國期間：民國 105 年 8 月 25 日至 8 月 29 日

報告日期：民國 105 年 10 月 21 日

分類號/目：H9/觀光

關鍵詞：日本、名古屋、祭典、推廣活動

內容摘要：

為推廣「Time for Taiwan 旅行臺灣・就是現在」及行銷臺灣各大旅遊主題，交通部觀光局委託台灣觀光協會組團參加「2016 年ど真ん中祭典街舞活動」，本次邀請中國文化大學組成「Time for Taiwan」展演隊伍前往愛知縣名古屋市參加該慶典。

「Time for Taiwan」展演隊伍前往愛知縣名古屋市參加該慶典。

本活動除參加街舞活動外，代表團也特別前往當地家扶中心「鳴海聖園天使園」舉行慈善義演，拉近我國與愛知縣民眾感情，並拜訪愛知縣大村秀章知事和名古屋市新開輝夫副市長，雙方就臺日兩國之觀光發展進行意見交流。此外，亦於大會會場設置臺灣攤位，提供民眾觀光諮詢服務，發放觀光文宣進行宣傳。本次任務除增加臺灣知名度，大幅增進臺日兩國民眾情感交流，代表團於 8 月 29 日返臺，圓滿達成任務。

目 次

壹、目的	5
貳、行程	7
參、推廣過程	8
肆、心得及建議	10
伍、附件	12
一、活動紀實	12
二、新聞稿	17
三、本局於大會刊登之廣告	19
四、媒體報導	20

壹、目的

日本名古屋「にっぽんど真ん中祭り(Nippon Domannaka Matsuri)」(以下簡稱多曼南卡節),是起源於 1996 年名古屋的大學生們,參加北海道的 Yosakoi Soran 祭典後受到啟發,於 1999 年在名古屋企劃舉辦一個完全由民間力量,包含學生和市民所舉辦祭典,迄今已邁入第 18 屆。每年 8 月的第四個週末,名古屋街道便宛如成為一個大型的展演舞台,吸引來自日本全國的觀眾。今(105)年參加多曼南卡節共有 207 個隊伍,參加表演人數 2 萬 3 千名,吸引約 200 萬名來自日本各地及國際觀光旅客造訪。

多曼南卡節參加規則是「使用鉞、鑼等鳴器」以及「採用一段當地的民謠」。亦即舞蹈中富有當地文化及個性的舞蹈,以及加入了當地民謠的獨創樂曲。世界各地的人們為了參加多曼南卡節而聚在一起。本活動的舉辦目標是為了「人類和地域的活性化」及「文化的繼承和創造」。

多曼南卡節最大特色是「総踊り(總舞)」,辦理理念就是「總動員為零的觀眾數」言下之意,就是全體參加人員亦是融入在其中的舞者。本活動在 2010 年,由 9,481 人共同齊舞 5 分 33 秒的「総踊り(總舞、大會舞)」創下了金氏世界紀錄;在場的所有人超越國籍、性別、文化、年齡等,自然形成一體、共同創造出一個節慶的歡樂空間。在總舞中,在共同的音樂下,跨越舞蹈者和觀眾的分界線、參加的所有人都能從中感受到舞蹈的樂趣及不同的風土文化,所有舞者都是主角,透過笑容,超越語言的障礙,從舞蹈中感受到心連心的交流。

名古屋為日本第三大城市,為開拓日本中部地方客源,並看好本活動的宣傳潛力,交通部觀光局自 2013 年起組團參加多曼南卡節,藉由參與日本知名國際性慶典吸引媒體報導及民眾參觀的方式,增加臺灣曝光率。本次並邀請中國文化大學舞蹈系所師生組成「Time for Taiwan」隊伍前往愛知縣名古屋市參加慶典。

本活動除參加街舞活動外，臺灣代表團也特別前往當地家扶中心「鳴海聖園天使園」舉行慈善義演，把幸福和快樂傳遞給當地小朋友。並拜訪愛知縣大村秀章知事和名古屋市新開輝夫副市長，雙方就臺日兩國之觀光發展進行意見交流。祭典活動期間交通部觀光局亦於會場設置臺灣攤位，提供臺灣觀光資訊，透過直接與民眾的面對面交流，以多樣化的方式，落實觀光宣傳及友好交流之目的，展現臺灣最棒的軟實力外交。本次任務除吸引媒體聚焦、增加臺灣知名度外，大幅增進臺日兩國民眾情感交流，代表團於 8 月 29 日返臺，圓滿達成任務。

本次推廣結合觀光、藝術、文化等交流。臺灣隊伍的參加，不僅提升臺灣在日本中部地區知名度及形象，更有助於臺日慶典交流。目前北海道 YOSAKOI SORAN 祭典、三重安濃津 YOSAKOI 祭典及名古屋多曼南卡節的主辦單位皆派遣隊伍來臺參加臺灣燈會，臺日雙方相互交流，加深與彼此的緊密連繫及友好關係，有助長期深耕日本市場。

貳、行程

日期	行程
第一天 8月25日 星期四	出發・綵排
	07:30~11:15 桃園/名古屋 CI-154 14:30-15:00 綵排
第二天 8月26日 星期五	慈善表演・拜會相關單位・前夜祭・歡迎晚宴
	10:30-11:30 鳴海聖園天使園慈善義演 14:30-14:50 拜會名古屋市副市長 16:30-16:50 拜會愛知縣知事 15:00-16:00 歡迎酒會 19:30-前夜祭演出 20:00-21:30 組織委員會舉辦臺灣隊伍歡迎晚宴
第三天 8月27日 星期六	終日參加表演
	12:33-大津通遊行演出(4場) 14:30-久屋大通公園主舞台演出 16:57-大津通遊行演出(4場) 18:15-美食廣場演出
第四天 8月28日 星期日	終日參加表演
	11:55-矢場公園會場演出 14:06-道德公園遊行演出(3場) 16:10 拍攝大合照 16:54-大津通遊行演出(4場) 20:30-久屋大通公園主舞台演出(Final Stage)
第五天 8月29日 星期一	返國
	09:55~12:50 名古屋/桃園 CI-151

參、推廣過程

一、祭典推廣活動

本次臺灣代表團由交通部觀光局委託台灣觀光協會辦理籌組觀光推廣團，由中國文化大學舞蹈系所師生 65 人組成表演團隊，以「Time for Taiwan」為隊名，表演主題為「霹靂台灣」，舞蹈內含臺灣傳統的俠義精神特質，藉由曼妙的紗裙及扇子等閃亮的服裝道具，描述臺灣先民渡海開墾的辛勞，把福爾摩沙美麗的一面傳達給觀眾，進而推廣臺灣觀光，促進臺日友好。本次為增加吸睛度，特於總決賽時，頒贈優勝隊伍臺灣大獎為一年份的鳳梨酥，藉此吸引話題並宣傳臺灣。

臺灣表演團除主舞臺表演外，並在久屋大通公園主場、大津通遊行會場、美食廣場、道德公園遊行及矢場公園會場等處進行踩街表演。活動會場並設置臺灣展攤，展攤位於人潮聚集的美食區，提供臺灣觀光諮詢服務及各式觀光文宣、地圖摺頁。參觀民眾可向工作人員直接諮詢臺灣觀光資訊，活動期間來訪民眾絡繹不絕，宣傳效果良好。

二、慈善義演

臺灣表演團特別前往當地兒童慈善機構「鳴海聖園天使園」進行慈善義演，該學園主要收容未受家庭完整照顧的孩童及青少年們；本次慈善表演帶來的舞蹈有融合臺灣布袋戲、傳統武術的舞碼，有翻滾及街舞等高超技術的呈現，藉由音樂與舞蹈的活力，都受到當地小朋友及少年們的歡迎；團員們也一同與院童們互動同樂，雖然語言不同，透過舞蹈及微笑，這樣的交流，也讓團員們體會愛無國界的意涵，亦是最好的教育。

二、日本愛知縣廳及名古屋市公館拜會

本次除進行推廣宣傳外，臺灣代表團分別至日本愛知縣廳拜會大村秀章知事，及前往名古屋市公館拜會新開輝夫副市長。愛知縣大村秀章知事及新開輝夫副市長與談時，分別表示對臺灣觀光代表團的歡迎，並就臺日觀光和祭典交流議題交換意見，亦傳達當地民眾期待臺灣隊伍的演出。我方也請知事與副市長能大力協助促成名古屋表演隊伍來臺參加台灣燈會表演及燈會展燈，希藉由慶典文化交流深化臺日的情感，並加深與愛知縣的緊密連繫及友好關係。強調宣傳觀光局於去(2015)年4月成立名古屋連絡站，是對當地業者及旅客能提供最直接的旅遊資訊服務。

活動期間除受到名古屋多曼南卡節組織委員會歡迎外，亦受到愛知縣寺西睦議員及名古屋市市議會橫井利明議員的陪同接待，從中了解愛知縣辦理國際性活動經驗，透過「城市行銷」提升國際知名度，進而促成地方產業發展，創造經濟效益，皆是可學習借鏡的地方。

肆、心得及建議

一、持續廣化、深化的文化交流

觀光局除組團參加名古屋多曼南卡節祭典外，另自 2004 年起組團參加北海道 YOSAKOI SORAN 祭典，2007 年起組團參加三重安濃津 YOSAKOI 祭典，長期深耕臺日民間文化交流活動，亦間接促成 2013 年於日本三重縣舉辦第 6 屆臺日觀光高峰論壇，新北市與日本三重縣簽訂觀光交流合作協定書，亦是長期深耕交流，擴及官方的成果。名古屋多曼南卡節代表隊，自 2012 年起來臺參加台灣燈會演出，2015 年及 2016 年名古屋市府更贊助台灣燈會燈車展示，雙方交流雖仍在初步，應把握此交流契機，日後更廣化深化雙方交流。

二、大型活動，建構長期目標

觀光局雖自 2013 年方組團參加名古屋多曼南卡節，是因看準該活動的宣傳潛力，該活動除在 2010 年，由 9,481 人一起跳 5 分 33 秒的「総踊り（大會舞）」而創下金氏世界紀錄外，並建構了一個 50 年的長期計畫，計畫內容包含活化地域、文化傳承、發揮當地特色及增進國際交流。辦理傳統慶典是重要的文化傳承外，亦需思考根植當地、培養後代傳承及理念的發揚，如東港三年一次的迎王平安祭，亦是傳承使命感及理念的全鎮型活動，對於辦理大型活動，亦可借鏡思考長期目標，活動才能永久延續。

三、扶植地方節慶，發展在地觀光

北海道 YOSAKOI SORAN 祭典的源起是，在 1991 年，一名北海道的學生參與了日本高知縣的 YOSAKOI 祭典，並被祭典盛況所感動，於是回到北海道，召集百名學生共同創辦了北海道 YOSAKOI SORAN 祭典。將高知縣 YOSAKOI 祭與北海道民謠索朗（SORAN）結合，發展為表演者、觀眾一起狂歡的都市歡慶祭典。1992 年第一次舉辦時，僅有 10 支隊伍和 20 萬名觀眾參與，至今則發展到每年

有 330 支隊伍 33,000 人參加，觀眾人數共計 200 萬人的龐大規模。北海道 YOSAKOI SORAN 祭典發展規模的盛大，和「札幌雪祭」，並列為札幌夏季與冬季的代表祭典。而在 1996 年夏天，到北海道參加祭典的名古屋學生們，亦受到祭典的感動，將這樣的祭典活動亦帶回名古屋，並在 3 年後付諸了實際行動，在 1999 年名古屋舉辦了首次的名古屋多曼南卡節。這樣由民間自發性發展的組織，自主性的辦理地方節慶活動，帶動地方發展，亦是我們可學習的方式。

四、民間異業行銷，結合在日台灣企業共同行銷

多曼南卡節祭典的組織委員會為民間組織，因為是民間自發性的辦理活動，因此需自行籌措財源，行銷手法皆較官方單位來得彈性，如運用各行銷管道多元通路，贊助商遍及食、衣、住、行，並有日本國內大型企業贊助，為期 3 日的活動期間，吸引約 200 萬餘人潮；本次活動會場的美食攤位，除了有日本當地美食如北海道玉米、熊本馬肉可樂餅等，在美食攤位販售各地知名小吃及祭典專屬紀念商品，衍生可觀的經濟效益。如為了個別的推廣活動，進行臺灣美食的販售或試吃推廣，需考量食品進口至日本的手續繁雜，因此可與在日本發展的臺灣企業共同合作行銷，相互提升知名度。

伍、附件

一、活動紀實

(一)鳴海聖園天使園慈善義演



臺灣代表團慈善表演為院童帶來精彩表演



臺灣代表團與院童一起互動同樂

(二)拜會愛知縣知事及名古屋市副市長



臺灣代表團拜會愛知縣大村秀章知事



臺灣代表團拜會愛知縣大村秀章知事



臺灣代表團拜會名古屋市新開輝夫副市長

(二)代表團參加名古屋市長歡迎午宴



臺灣代表團參加名古屋市長歡迎午宴



臺代表團代表與名古屋河村市長

(四) 舞台遊行演出及推廣攤位



臺灣代表團踩街演出



臺灣代表團踩街表演，受到沿途民眾歡迎



臺灣代表團主舞臺表演



臺灣展攤提供臺灣觀光資訊



主辦單位製作歡迎臺灣代表團布條表示歡迎之意



臺灣代表團合照

二、新聞稿

臺灣「Time for Taiwan」團隊
參加名古屋「2016 多曼南卡節」街舞慶典
傳達熱力臺灣印象・深化臺日觀光交流

交通部觀光局邀請私立「中國文化大學」舞蹈系所學生以「Time for Taiwan」為隊名，組團抵日本名古屋參加當地著名的「多曼南卡節(Domannaka Matsuri)」夏季街舞慶典活動，將臺灣熱力形象向全日本傳達，以增進臺日觀光熱度，爭取日本旅客來臺觀光旅遊。

名古屋多曼南卡節創於 1999 年，於每年 8 月份舉辦，為日本中部地區規模最大的舞蹈慶典活動，迄今邁入第 18 屆；曾在 2010 年，由 9,481 人一起舞出 5 分 33 秒的「総踊り（大會舞）」而創下金氏世界紀錄。今(105)年 8 月 26 至 28 日為期 3 天，仍以「名古屋」及「榮」車站為中心，共計 19 個表演場地，由來自日本國內外約 2 萬 3 千人(207 隊)進行表演，受媒體廣泛報導，同時吸引日本各地及國內外約 200 萬民眾參觀，宛如一場夏季嘉年華盛會。

「中國文化大學」師生組成的 65 人臺灣展演團體參加本活動，舞蹈主題延續北海道索朗祭，訂為「霹靂台灣」，以舞蹈及武術表演，強調臺灣傳統的俠義精神特質，藉由曼妙的紗裙及扇子等閃亮的服裝道具，描述臺灣先民渡海開墾的辛勞，將美麗的福爾摩沙傳達給日本觀眾，突顯臺灣觀光印象。展演團隊除踩街表演及主舞臺演出外，並前往當地照顧未受到家庭保護的孩童慈善機構-鳴海聖園天使園進行義演，將臺灣的友善及幸福快樂傳遞給小朋友。

交通部觀光局自 2013 年起參加名古屋多曼南卡節，今年係第 4 次組團參與。名古屋是日本第三大城市，交通部觀光局為開拓日本中部地區客源，增加吸睛度與宣傳效果，特於總決賽時，頒贈優勝隊伍「臺灣大賞」，獎品為一年份日本旅客來臺必買的鳳梨酥，透過話題行銷臺灣。且特於慶典活動會場佈設臺灣觀光宣傳攤位，提供各式觀光文宣、地圖摺頁等觀光訊息，並透過與民眾直接面對面交流與活動遊戲，期喚醒日本中部地區民眾來臺旅遊意願，展現臺灣

最棒的外交軟實力。

今年 1~7 月日本旅客來臺為 100 萬 9,621 人次，比去年同期成長 17.46%，為早日達成 2016 年第 9 屆臺日觀光高峰論壇決議之臺日互訪 600 萬人次的目標，交通部觀光局針對日本市場，希冀結合政府各相關單位與觀光產業界共同努力，持續配合「美食、浪漫、樂活、購物、生態、文化」6 大觀光主軸，輔以公關活動、電視廣告、電視牆、平面廣告、影視旅遊節目、旅行社摺頁、網路及活動等國際宣傳作為；並配合推出促銷活動，以點、線、面布局，延續強化重點進行推廣。

三、本局於大會刊登之廣告

本局於大會刊登之廣告



四、媒體報導

(一)日本中日新聞報導

日期：2016年8月27日

2016年(平成28年)8月27日(土曜日) 中日新聞 東京

白熱キャンパスバトル どまつり開幕

二十六日、名古屋・栄の久屋大通公園での前夜祭で開幕した「第十八回どまつり」(中祭り・どまつり)。(中日新聞社共他)。

大学生や高校生らが競う「キャンパスバトル」では力強い踊りが披露され、海外から参加したチームも舞った。

キャンパスバトルは、国内外の三十五チームが競った。法被姿の若者たちは四分の制限時間で、囃子を手に躍動。大きな旗を振ったり、番傘を開いたりするなど演出にもこだわり、「愛知淑徳大学鳴鶴」(名古屋市千種区)の同大三田島里紗さん(こ)は「毎日八時間近く練習した成

果を発揮できた。仲間府箕面市)が優勝しには感謝の気持ちでいっぱい」と声を弾ませた。

昨年(こ)に続き、「大阪大学お祭りダンスサークル 祭楽人」(大阪府)が参加。このうち、台湾の会場も含め、海外からは台湾とサイパンの各一チームが参加。このうち、台湾小で、近くの児童養育施設の子に披露

北市の中国文化大学の生ら六十五人でつくる台湾チーム「Time for Taiwan」は本番に先立ってこの日午前、緑区の鳴鶴で、近隣の児童養育施設の子に披露

護施設「鳴海聖園」(大阪府)の子どもら約五十人に踊りを披露した。六十五人が軽快な現地の民謡に合わせ、ナンチャクや扇子を手に演舞。子どもたちは大きな拍手を送りながら楽しんだ。

(朝日新聞記者、目黒広菜)



学生チームのナンバーワンを競う「キャンパスバトル」(名古屋・栄の久屋大通公園)で



施設の子どもたちを前に力強い演舞を披露する台湾チーム「名古屋緑区の鳴鶴小で

「若い」 体操・寺本選手、中京大で欲談

リオデジャネイロ五を詔った。

一方で報道陣の取材に「今はやっぱりメダ

(二)日本名古屋 NAVI 報導

日期：2016年8月27日

につぼんど真ん中祭り、大津通パレード

クリップ追加

2016/8/27(土) 午後 8:48

どまつり(につぼんど真ん中祭り)

その他文化活動

シェア ツイート

6

につぼんど真ん中祭り(どまつり)の大津通りパレードが8月27日(土)におこなわれました。大津通りパレードは、予選コンテストを兼ねており各チームの演舞にも気合の入るところです。矢場町交差点から栄交差点までのパレードコースには、観覧日和となる曇り空となって、多くの観客で埋め尽くされました。(2016年8月27日)

▼8月27日(土)、どまつり大津通パレード、「夜宵」2015年準どまつり大賞



▼8月27日(土)、どまつり大津通パレード、台湾の「Time for Taiwan」





▼8月27日(土)、どまつり大津通パレード、赤ふんは今年も人気絶大「北海道大学」緑



【2016年 第18回につぼんど真ん中祭り】

日程:8月26日(金)前夜祭、27日(土)本祭1日目、28日(日)本祭2日目
会場:名古屋市中区久屋大通公園他愛知県内19会場 参加:207チーム

日期：2016 年 8 月 29 日

YAHOO! JAPAN ニュース ようこそ、mothrao さん
0ポイント 毎日引けるハズレなし『すごいスピードくじ』

キーワードを入力 ニュース

トップ | 速報 | 写真 | 映像 | 雑誌 | 個人 | ビジネス | 特集 | 関連

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT・科学 ライフ **地域**

北海道・東北 | 関東 | 信越・北陸 | **東海** | 近畿 | 中国 | 四国 | 九州・沖縄

どまつり、きょう開幕。前夜祭3700人の踊りに地元湧く／愛知

THE PAGE 2014年8月29日(金)21時58分配信

[Twitter](#) [Facebook](#)



第16回 につぼんど真ん中祭り（通称：どまつり）が開幕し、8月29日17時から前夜祭が行われた。久屋大通公園会場では、前年度の受賞チームを含む46チーム総勢3700人が演舞を披露。一時、雨に見舞われるなど不安定な天気であったが、多くの観覧客が会場に詰め寄せ、各チームの息の合った踊りに拍手や声援を送り、大賑わいの初日となった。

【画像】Exhibition2013敢闘賞枠で演舞を披露した「中京大学晴地舞」

また今年が初となる企画「全国学生No.1決定戦！キャンパスバトル」を、同エリア内で開催。学生26チームを対象に、観客からの拍手や声援の音量で勝敗が競われ、見事「北海道大学“縁”」がNo.1の栄光に輝いた。

どまつりは今後、30日「本祭1日目、ファイナルシード決定戦、U-40部門審査」、31日「本祭2日目、第7回どまつりジュニア大会、ファイナルステージ」へと続く。今年は海外から、サイパン、韓国（釜山）、台湾（台北市）の3カ国からのエントリーもあり、国内外で合計209チームが参加。31日19時から久屋大通公園で開催する「ファイナルコンテスト」にて、今年の最高賞「どまつり大賞」の受賞チームが決まる。

(四)日本愛知縣大村秀章知事官方面落格

推文 2.04萬 正在關注 2,375 跟隨者 5.59萬 喜歡的內容 35 列表 1

大村秀章 @ohmura_hideaki · 8月26日
台湾の観光関係の皆さんと。愛知県公館にて。



3 8

大村秀章 @ohmura_hideaki · 8月26日
続いて、台湾交通部観光局国際組のコウ科長始め、台湾の観光関係の皆さんがお越しになりました。「にっぽんど真ん中祭り」のチームが、台湾で旧正月を祝う「ランタンフェスティバル」に参加した縁で相互交流がスタートし、今年で5年目。こうした縁を大切に、両地域の友好が深まることを期待します。

3 9

(五)日本愛知縣名古屋市市議會橫井利明議員部落格

2016年08月29日

日本ど真ん中まつり 地域会場が面白い



真夏の名古屋を舞台に行われる、日本最大級の踊りの祭典「にっぽんど真ん中祭り」。第18回を数える今年度は、国内外から207チーム約23,000人が参加。それぞれのチームは華やかな衣装を身にまとい、リズムカルな音楽に乗せて、地域色豊かな踊りを披露。体全体を使った迫力の演舞を繰り広げた。

さて、このどまつりを支えるのは、県下、全19会場で開催される地域会場。商店街や学区連絡協議会、学生などで構成される地域の方々が、おもてなしの心をもって参加チームや来場者を迎える。



もちろん、地域会場に対するどまつり本部からの助成や名古屋市からの補助などは一切ない。全国から集まる若者を始めとするチームの方々の希望と汗を支援するため、それぞれの地域会場は手弁当で会場運営に取り組む。

地域会場の一つ、道徳会場は、最終日8月28日(日)に開催され、全国各地から来場した49チームが地域色豊かな踊りを繰り広げた。



道徳会場を運営するのは、道徳学区連絡協議会に所属するボランティアスタッフ500人。スタッフ専用デザインされたユニフォームTシャツを着こみ、それぞれの役割分担表に従って会場の運営をおこなう。もちろん、謝金などはなく支給されるのは2個のおにぎりとお茶だけだ。

今年、地域会場「道徳会場」を訪れた観客は9,000人(主催者発表)。なぜ、これだけ多くの方々が地域会場を訪れるのか。



理由は踊り子と観客の一体感だ。

「道徳会場」では、車道を踊りながらパレードする踊り子と、歩道で応援する観客の距離がゼロ。「頑張れー」「いいぞー」などの掛け声や拍手で踊り子を鼓舞すると、踊り子は精いっぱい演技や「ありがとうございます」など感謝の気持ちで観客に応える。時には、踊り子は歩道内に入り込み、観客とハイタッチしたり握手したりハグしたり。こんな会場はそうあるものではない。



また、会場では「給水所」や「救護所」等を設置。熱中症にならないよう無料でお茶等を提供。また、万が一、熱中症で踊り子が倒れた場合には、会場が準備した担架でクーラーがきいた救護所へ運び込み、看護師が直ちに処置。重症の場合には救急車で契約している病院に転送。過去、とても暑い夏には、6人の学生が救急車で病院に運び込まれることもあったが、今では、会場と看護師、医療機関の連携で早めの対策で、重症化を防いでいる。



また、今年の道德会場では、暑い名古屋の夏の気温を少しでも下げ、踊り子たちに気持ちよく踊っていただくため、「打ち水大作戦」を挙行了た。

演舞の合間を縫って5分間かけ、子どもたちや沿道の方々が上下



水道局が準備した処理水を使って打ち水に参加。道路は一瞬にして水浸しになった。気化熱で周辺温度は0.5度低下。わずかではあるものの、打ち水の効果は現れた。



今年の道德会場が最高の盛り上がりを見せたのは、招待チームである台湾台北市の大学生で構成する「Time For Taiwan」の皆さんの演舞。台湾独特の踊りで沿道の観客を魅了した。なお、「Time For Taiwan」は台湾政府観光局が台湾への日本観光客の誘致を目的に観光戦略で名古屋に送りこんだチーム。

道德会場には今年で3年連続台湾チームが参加。観客も毎年、台湾チームの来場を心待ちにしており、交際交流、国際理解のいい機会となっている。



会場の運営をされたボランティアスタッフの皆さん、会場にお越しいただいた観客の皆さん、ありがとうございました。そして、演舞された踊り子の皆さん、お疲れ様でした。